

平成20年度第2回外国人児童生徒教育検討会議概要

平成20年12月16日

13:30～16:00

県庁舎6階65会議室

=就学支援や進路保障等の取組の現状=

外国人児童生徒教育の充実方策について（報告）の概要から一部抜粋

（平成20年6月 初等中等教育における外国人児童生徒教育の充実のための検討会）

○外国人の子どもに対する就学支援について

(1) 外国人の子どもの就学状況に関する調査の実施

国は、一部地域を対象とした抽出調査により定期的かつ継続的に、外国人の子どもの就学状況に関する調査を実施。

(2) 外国人に対する就学案内や就学相談の実施

市町村においては、就学ガイドブックの作成・配付や、外国語の話せる相談員を配置し、外国語による就学案内、教育関連情報の的確な提供を推進。

(3) 関係機関・団体の連携による就学促進活動の実施

市町村の外国人登録の担当部署と教育委員会の就学事務の担当部署の連携による外国人登録情報の共有や就学案内の実施。

地域のNPOやボランティア団体、児童相談所等の関係機関、スクール・ソーシャルワーカー等と連携・協力した就学相談や就学案内の実施。

○外国人児童生徒の適応指導や日本語指導について

(4) 外国人児童生徒の進路指導や生徒指導等の諸問題への対応

進路指導の充実等

- ・市町村は、外国人生徒や保護者を対象に合同の進路説明会を開催。
- ・都道府県は、高等学校入学者選抜において、外国人生徒を対象とした特別枠の設定や受験教科数の軽減等の配慮措置を実施。

☆検討会議参加7市の取組状況

	就学支援	進路指導の充実
桑名市	・ブラジル人学校と連携し、子どもたちの状況の把握に努めている。	・事務局担当者と国際化対応教員が高校を訪問し、そこで得た情報をもとにスライドを作成。スライドをもとに進路ガイダンスを開催。
四日市市	・各学校の就学時健康診断や新入	・進路ガイダンスを開催。高校別の

	<p>児の説明会時に、外国人の保護者からの相談に丁寧に応じる機会を設定。(通訳の派遣)</p>	<p>ブースを設置し、個別の相談を受ける機会を設定。高等学校の説明資料を他言語に翻訳し、教育委員会のホームページに掲載。</p>
鈴鹿市	<ul style="list-style-type: none"> 就学ガイダンスを開催。配付冊子は、就学ガイダンス用のDVDをもとに作成。 就学ガイダンス用の冊子は、編入時にも配付。(DVDの視聴も可能) 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校1・2年生を対象に、教育委員会の担当者が学校を訪問し、進路に関する思い等の聞き取りを実施。 年に1度、中学校3年生を対象に進路ガイダンスを開催。小学校6年生以上であれば参加可。 外国籍の高校生の交流会に、今年度は、中学生も参加。
亀山市	<ul style="list-style-type: none"> 入学案内が家庭に届かない状況が出た場合は、事務局職員が家庭を訪問し、居住の状況を確認。 外国人児童生徒の在籍が多い小学校2校で、就学ガイダンスを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスを開催。今年度は小学校6年生までを参加対象として実施。
津市	<ul style="list-style-type: none"> 5言語に翻訳した「小学校入学ガイドブック」を作成し、通訳者もつけ実施。小学校の保護者と児童によるパネルディスカッションも開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会を組織し、進路ガイダンスを開催。
松阪市	<ul style="list-style-type: none"> 外国人登録窓口と教育委員会の就学窓口の連携のシステム化。 子どもたちの就学に関わる関係機関等の担当者が集まり就学支援のあり方について検討。 小学校への就学のためのガイダンスを当該校にて開催。教育委員会から通訳の派遣等を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年進路ガイダンスを開催。就学に関わる会議等でガイダンスのあり方を検討し、充実。
伊賀市	<ul style="list-style-type: none"> 外国人登録窓口と教育委員会の就学窓口の連携のシステム化。(通訳、ガイドブック、初期適応指導教室の案内等) 小学校入学時の説明会が必要。 小中学校の教員、NPO等のネットワークによる、不就学者の把握。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校教員、NPO等で委員会を組織し、進路ガイダンスを開催。 高校生交流会に本年度から小中学校の児童生徒の参加を呼びかけ。

= 就学支援や進路保障等の取組に関する質疑・応答 =

津市の就学ガイダンスで、小学生がパネルディスカッションを行うということだったが、もう少し詳しく聞かせていただきたい。

質問に対して、前でパネラーとして自分の小学校の体験を答えるという形で行った。小学生なので、内容に深まりのあるところまでは難しいが、どんな楽しみがあるか、休み時間はどんなことをしているかなど、小学生の声で伝えたことはよかった。

また、保護者の関心が高いと思われる就学援助や学童保育についての説明も行った。

鈴鹿市は今年、国の事業を受けて、その柱の1つとしてプレスクールを開設しているが、その取組状況を聞かせていただきたい。

指導主事と通訳が、在籍のある幼稚園を午前、あるいは午後と時間を決めて訪問している。当該の子どもに対して、できるだけ言葉のやりとりを多くし、コミュニケーションの能力の育成や、あるいは、一緒に遊んだり作業をする中で、その子の中で言葉のように育てていくのかなどについて、幼稚園の教諭とともに取り組んでいる。

桑名市のブラジル人学校と連携した取組について詳しく聞かせていただきたい。

ブラジル人学校に市内から通っている子どもたちがいることから、しっかり状況を把握しておく必要があると考え、四日市市と鈴鹿市のブラジル人学校に対して必要に応じて訪問させていただいている。その際に、生徒指導上の連携についてもお願いしてきている。

就学ガイダンスについて、市全体でのガイダンスの開催と各校の新入児説明会時に開催といった二つの方法があるが、それぞれの意図を聞かせていただきたい。

・市全体で実施

点在する学校が、学校として言語指導等のようなことに気がつけたらいいかなど、不安に感じている状況があり、そこを支援するという意図である。

・各学校での実施

当該の保護者の個々にどこまで丁寧な対応ができるか、また、同時に内容的な充実を考えると、当該の学校で、職員と顔を合わせて話し合うことで、よりよいものになるのではないかという思いからである。

＝就学支援や進路保障の取組を充実するための関係機関との連携＝

☆検討会議参加7市の連携の状況

	関係機関との連携
桑名市	教育委員会と市長部局の役割を整理し取り組んでいく。
四日市市	平成19年度から、文化国際課国際係が中心になり、共生推進庁内会議を開催している。外国人の方に直接窓口対応をしたり、保険や年金等手紙を送付したりする部署の担当者が集まり、対応方法や注意事項について協議している。今年度は、多文化共生庁内課長会議を開催している。
鈴鹿市	今年度から、「鈴鹿市多文化共生指針策定プロジェクト会議」を設置し、鈴鹿市として多文化共生をどのように進めていくかについて、指針を策定している。
亀山市	市長部局では企画経営室、町づくり推進室が必要に応じて関わり、取組を進めている。
津市	ガイダンスについては、取りまとめている人権教育課、就学に関わる子ども家庭課、国際国内交流室（市長部局）、教育研究支援課、学校教育課（就学援助係）、青少年課（学童保育）の関係者を実行委員として集めるという方式をとっている。 三重県国際交流財団、三重大学教育学部、留学生交流センターに通訳、翻訳、研修会の講師の派遣等をお願いしている。
松阪市	平成16年に、官民協働の松阪市多文化共生ネットワークが組織された。NPO、医師会、国際交流協会、学校関係、行政関係など様々な部署が入ったネットワークである。
伊賀市	平成18年から、市長に提言する組織として条例で位置づけられている外国人住民協議会（平成17年から、地区ごとに住民自治協議会が発足した。外国人については地区単位でなく1つの協議会として位置づけられた。）が設置されている。